---

## ◆【海員随想】ＢＩＳＫＲＡ号航海記（12）④　元機関長　新木繁雄

**4 月 29 日（日）アビレス停泊**

予定通り朝 6 時離岸、錨地へ転錨。ここでラッシング専門の業者が来てラッシングする。機関長がまた「潤滑油清浄機の具合が悪い」といってきた。開放点検。武村君と二人がかりで昼近くまでかかって、ようやく原因を突き止めた。

ヨーロッパの水には多量のシリカ（珪酸）が含まれていて、それが清浄機の作動水分配板の穴を詰まらせる。定期的な掃除が必要である。油清浄機の壊れやすい部品をリストアップし、機関長に請求書を出させた。

今日は日曜日だから、ラッシング人夫は来ない。船長が無線電話でアルジェリア船と話していたら、初めはよかったが、途中から聞こえなくなってしまったらしい。「ものすごく怒っている」と無線士が言っていた。一等航海士がそれに関してクレームカードを持ってきた。日本へ行く途中のシンガポールで修理してもらいたい、と書いてある。早速造船所あてに手紙を書いて、代理店に渡した。

**4 月 30 日（月）アビレス停泊**

朝から積荷のラッシングが始まった。時化に遭っても積荷の鉄板が動かないように、頑丈なラッシングが必要だ。ラッシングに使うダンネージも、はしけにいっぱい持ってきた。今日一日では終わらないらしい。

カロリーファイヤーの電気ヒーターからアースが出た。それも完全アースだ。姉妹船のビシャー号も「ヨーロッパへ来て 2 週間ほどでアースが出た」といっていた。ヒーターロッドを取り出してみた。周りにびっしりシリカが付着し、これが熱伝道を妨げ、ロッドがパンクしている。本船のカロリーファイヤーは電気と蒸気の両方で水を沸かすことができるようになっているから、ヨーロッパで補給した水を使っている間は蒸気だけで沸かすようにしよう。電気で沸かしていたら、ヒーターが何台あっても足らない。

Ｃ／Ｅが「一緒に上陸しよう」と誘いに来た。「昨日、スペインの金を全部使ってしまった」と言ったら「おれが持っているから心配ない」という。しかし念のためＵＳドルを少し持っていくことにした。

ライフボートを下ろして、乗組員と一緒に武村君も交え上陸。Ｃ／Ｅは、家へ電話するのが目的の上陸だったようだ。地震の後の状態を知りたかったのだろう。しかし、どうしてもユーゴスラビアの彼の家へ通じなかった。結局諦め、飲むことにした。レストランでオマールエビのクリーム煮を取り、ブランデー（カルロスⅡ）を 1 本もらい、3 人で飲んだ。11 時 30 分帰船。

「海員だより」